

謹賀新年

長野県立美術館オープン+建築展



コロナ禍の中、心配された一般公開でしたが、4月10日無事に長野県立美術館がオープンしました。6月19日から約2ヵ月間、「つながる美術館 宮崎浩とランドスケープ・ミュージアム」として、建築展が開催されました。ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。

今年は、延期となっていた善光寺の御開帳も予定されています。機会がありましたら、是非、長野へ足をお運びください。

プランツアソシエイツのHPで美術館建築ムービーも紹介しています。



長野県立美術館の周辺計画

美術館の開館と前後して、待合プラザ（バス停とトイレ）と長野市による城山公園の全面リニューアルも完成しました。待合プラザは、美術館に至るゲートと位置付け、軽快なデザインとしています。城山公園は、市民に親しまれてきた噴水を新たな形で整備し、ランドスケープ・ミュージアムと一体となった公園となりました。



川場村新庁舎

群馬県川場村で、村役場の建替計画が進んでいます。老朽化した既存施設の更新にあわせ、複数の公共施設を集約した新たな拠点づくりを行うものです。観光と林業を生業とする村にあって、村の木材を使った製材による架構を中心に、木を活かした空間づくりを目指しています。

昨年末、造成工事が完了し、2月に建築本体工事が始まる予定です。



書籍が出版されました

美術館オープンに合わせて4月に「つながる美術館-長野県立美術館メイキングドキュメント」が彰国社から出版されました。ディテール別冊「宮崎浩/つなぐ境界のディティール」では、1997年竣工のNSPビルから最新作の長野県立美術館まで、20のプロジェクトのディテールを紹介しています。



高断熱カーテンウォールの開発

建築物の省エネルギー性能のより一層の向上を求めて「高断熱アルミカーテンウォール」の開発に挑戦し、長野県立美術館で採用しました。



テラス沼田

- ・第30回 BELCA賞
- ・2020年度 日本建築防災協会理事長賞・耐震改修優秀建築賞
- ・第53回 SDA賞 金賞
- 減築、コンバージョンといった取り組みやデザインが評価されました。